

平成30年度

環境活動レポート



対象期間　：　平成30年4月～平成31年3月

発行年月日　：　平成31年6月6日

株式会社　理水興業

・表紙	1
・もくじ	2
1 挨拶	3
2 環境方針	3
3 事業概要&認証登録範囲	4
4 実施体制	5
5 環境目標	6
6 環境活動計画	7
8 環境目標の実績 教育訓練・避難訓練・献血活動の様子	8
汚泥リサイクルセンターと地域住民説明会の様子	9
9 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	10
10 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	11
11 代表者による全体評価と見直しの結果	12
12 情報公開事項	13
12 処理方法・処理工程	14
13 受託した廃棄物の収集運搬処理量	15
14 汚泥リサイクルセンター産業廃棄物の処理工程	16
15 産業廃棄物処分及び運搬許可一覧	17

1 挨拶

当社の理水興業という社名から、生活環境の原点である水資源を大切に
する事に重点を置き、汚染された水をもう一度環境に適した資源になる
べく、あらゆる環境保全に取り組みます。

また、社会貢献への取り組みと共に東日本大震災への復興にも積極的に
参加し、地域住民の一員として環境対策に惜しみなく力を注ぐ企業を目
指していきたいと考えております。

代表取締役社長

今野 秀實

2 環境方針

《環境理念》

株式会社理水興業は『永遠に美しい地球』をテーマに企業の存立基盤
を確保しつつ、地域社会の一員として環境対策に積極的に取り組み、次
世代へ、より美しい自然環境を引き継ぐために努力し身近な環境の保全
を基軸に地域社会に貢献し、共に繁栄する企業を目指します。

《環境保全への行動指針》

- 1 当社が行う事業活動の環境に与える影響を正確に捉え、環境への
負荷を低減し環境の保全活動に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出の削減
 - (2) ゴミの分別・削減
 - (3) 生活排水の軽減・節水
- 2 車輛運行ルート of 効率化とエコドライブを実践し省エネと排ガス抑制、
廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率を向上させます。
- 3 環境に関する知識の向上を図り普及・啓蒙と環境保全の高揚に努め、グ
リーン購入を推進します。
- 4 現場における再資源化を考慮し、計画・設計時から廃棄物の削減をし効
率的な施工方法で省資源・省エネルギーを推進します。
- 5 地域・社会貢献活動の推進に努めます。
- 6 事業活動に関連する法規制を遵守します。
- 7 全社員及び協力会社従業員にこの環境方針を周知徹底し、理解と意識の
向上に努め、地域に密着した企業活動を行い活動結果を公表します。

制定日：平成26年1月4日

株式会社 理水興業

代表取締役社長

今野 秀實

3 事業概要&認証登録範囲

1 名称及び代表者名

株式会社 理水興業
代表取締役社長 今野 秀實

2 所在地

本社 岩手県花巻市星が丘2丁目16番12号
水環事業部 岩手県花巻市中北万丁目97番地
汚泥リサイクルセンター 岩手県北上市口内町松越134番地1

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 環境事業部 部長 高橋 満 TEL: 0198-23-5395
担当者 営業推進課長補佐 今野 睦 TEL: 0198-23-5395

4 事業活動の内容

1. メンテナンス部門

汚水処理施設(浄化槽含)の維持管理、清掃
許可番号 浄化槽保守点検業 岩手県27(登)中第5号 H31.1.7~R3.1.6
盛岡市 27-12 H31.1.7~R3.1.6
浄化槽清掃業 花巻市第334-2号 H30.4.1~H32.3.31

2. 環境事業部門

(1) 産業廃棄物(特別管理産業廃棄物含)の収集・運搬(積替保管含む)、
中間処理(汚泥)・処理
(2) 一般廃棄物収集運搬業
(3) 貯水槽・油タンク等の清掃・管理、各種配管の洗浄・更生
許可番号 別途記載(P11参照)

3. 工事部門

(1) 管工事 給排水・衛生・空調・消防設備・浄化槽等の設計・施工
(2) 土木工事 水道本管・舗装・下水関連等
(3) その他の工事 電気工事等
許可番号 特定建設業
岩手県知事(特-24)第4479号 H29.7.18~H34.7.17
一般建設業
岩手県知事(般-24)第4479号 H29.7.18~H34.7.17
排水設備工事指定 花巻市 H30.4.1~H35.3.31
大船渡市 H30.4.1~H35.3.31
紫波町 H30.4.1~H35.3.31
北上市 H30.4.1~H35.3.31

5. 主要売上 平成30年度
15.5 億

項目	本社	水環事業部	リサイクルセンター
従業員	60	4	4
延べ床面積	646.82	131.36	41.62

6 認証登録範囲

全組織・全事業活動が認証登録範囲

7 営業範囲

県内一円

8 社歴

昭和35年4月 浄化槽の管理(メンテナンス)・清掃を目的として創業
昭和47年9月 浄化槽の管理・清掃を主要業務として、有限会社ロクサン衛生社を設立。
昭和48年3月 有限会社花巻浄化槽センターへ商号変更
昭和53年8月 貯水槽清掃・産業廃棄物の収集運搬・処分、管工事等を追加
昭和56年11月 有限会社理水興業へ商号変更
昭和62年9月 産業廃棄物収集運搬業許可(岩手県)取得、業務開始
平成5年7月 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可(岩手県)取得、業務開始
平成6年10月 株式会社理水興業へ組織変更
平成8年4月 産業廃棄物処分業許可(岩手県)取得、
移動脱水車による汚泥の中間処理業務開始
平成11年3月 特定建設業許可取得(特-10)4479号管工事業
平成22年3月 北上市口内町松越に汚泥リサイクルセンター
(汚泥中間処理施設)竣工・操業開始

4 実施体制

1 組織 (平成30年度)



2 役割・責任・権限

役職	役割・責任・権限
代表者 (社長)	・環境経営に関する統括責任。
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
	・環境管理責任者を任命。
	・報告を受け全体の評価と見直しを行う。
環境管理責任者	・代表者に代わり、環境経営システムの構築、実施、管理を行う。
	・環境活動実績の確認、評価。
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告。
	・環境活動レポートを確認。
環境管理委員会	・委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。
	・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を部門責任者は各部門で実施する。
	・環境活動レポートの作成、公開。
環境事務局	・環境管理責任者の補佐。
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
部門責任者	・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。
	・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
	・従業員に対する教育訓練の実施。
全社員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5 環境目標

1 主な環境負荷の実績

主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	726,542	738,617	806,509	788,632
購入電力使用量	kwh	196,573	195,697	223,547	216,114
受託産業廃棄物 (収集運搬)	t/年	20,210	18,166	10,889	13,161
受託産業廃棄物 (中間処理)	m ³ /年	7,179	7,230	6,770	7,065
産業廃棄物排出量	t/年	1,022	540	919	1,506
一般廃棄物排出量	kg/年	12,639	17,450	17,285	30,228
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	6,796	5,461	5,464	4,570

2 環境目標の設定

当社では、平成29年度の目標の基準を平成28年度を基準年度として中期及び単年度の環境目標を、それぞれ表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

表2 環境目標

基準年度(平成28年度)比の削減(増加)率(%)

項目	基準年度実績値		中期目標(内単年度目標)			
	実績値	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
二酸化炭素排出量	738,617	kg-CO ₂	1%削減	1%削減	2%削減	2%削減
購入電力使用量	195,697	kwh	1%削減	1%削減	2%削減	2%削減
産業廃棄物排出量	540	t	1%削減	2%削減	2%削減	2%削減
一般廃棄物排出量	17,450	kg	1%削減	2%削減	2%削減	2%削減
総排水量 (水資源投入量)	5,461	m ³	1%削減	2%削減	2%削減	2%削減
グリーン購入	グリーン製品を積極的に購入する。					
環境配慮製品の販売	環境にやさしい設備機器を積極的に採用する。					
社員教育	2回		3回	3回	3回	3回
その他(地域貢献)	2回		3回	2回	3回	3回

6 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取組んでおります。今年度から、取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	取組内容	総務	事業所	現場	備考	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	①昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する	○	○	○	
		②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不必要な時は、消灯している。	○	○	○	
		③事務室の部分照明を実行する。	○	○	○	
		④照明器具については、定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している。	△	△	○	年末の掃除にしか清掃を行わない
	冷暖房	①冷暖房の温度（冷房25℃、暖房23℃）を順守する。	○	△	△	総務は適正な室温を保てるが、現場作業員が帰社した時や出社時に設定温度が大幅にかえられたままになっていることが多い
		②空調が必要な区域・時間帯に限定する。	○	△	△	各部屋に1つしかないため間切りが難しい
		③使用していない部屋は、空調を停止している	○	○	○	
		④ドアの開け放しはしない。	○	○	○	
	節電	①昼休みなど、休憩時、不必要な個所は消灯する。パソコンの電源は切る。	△	△	○	パソコンは常にスタンバイになっている
		②残業の時は、必要な個所のみ点灯し、業務に必要なない箇所は消灯する。	○	△	○	
		③退社時は、OA機器の待機電源は切る。	○	△	○	スタンバイのまま退社していることが多い
		④パソコン等のOA機器や照明器具などの省エネルギー型への切り替えに取組んでいる。	○	△	○	来年度、大幅なパソコンの買い替えを予定している
車輛その他	①車両のアイドリングストップを実践する。	△	○	○		
	②急発進・急加速はしない。	△	○	○		
	③冷暖房の控えめ使用	△	○	△	外での作業等の際は熱中症対策もあり、冷房等の使用頻度が多くなる	
	④タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する。	△	△	○		
	⑤建設機械等の運転を停止する際は、エンジンを停止する。	△	△	△		
	⑥建設機械等をリースする際は省エネルギーの機種を優先的に選定・リースする	△	△	○		
	⑦最大積載量に見合った輸送単位の設定を行う。	△	○	○		
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	①書類の内容やレイアウトを見直し、枚数を少なくする	○	△	△	提出書類を準備する際に大量に印刷するため、間違いがあるとミスコピーの大量発生がよく見られる
		②同じ内容の資料や書類の写しは1冊にまとめ、複数人で利用する	○	△	△	ミスコピーが多い
		③帳簿見直しによる印刷物の削減	○	△	△	
		④使用済コピー用紙、段ボール、雑誌、新聞紙等は、所定の場所に分別保管する。	○	○	△	現場での分別はもっと細かく分別が必要
		⑤分別した紙ごみは、再生資源業者に引き渡し、リサイクルする。	○	○	△	
		⑥文書の共有により、不要な印刷物を削減する	△	△	△	回覧以外はほとんど文書の共有はなく、印刷枚数（紙の使用量）が多いと思われる
		⑦紙・金属缶等は、所定の保管容器に確実に分別する。	○	○	○	
		⑧コピー機の下ナーカートリッジの回収、リサイクルを推進する。	○	○	△	
	産業廃棄物	①産業廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を行う。	△	○	○	
		②現場等で発生した廃棄物を分別し適正処理を行う。	△	○	○	
③在庫管理の徹底により、不良在庫を減らす。		△	○	○		
節水・排水	用水・排水	①節水の表示を行う。	○	○	△	
		②蛇口・排水管の水漏れがないか確認する。	○	○	△	
		③水道を流しながら使用しない。	○	○	○	
		④トイレ用水の節水に努める。	○	○	○	
その他	施設・設備	①事務所、及び管理施設周辺の整理整頓に心がける。	○	○	○	
グリーン購入	①消耗品、事務用品はエコ商品を優先し購入する。	○	○	△		
	②省エネ基準適合商品を購入する。	○	○	△		
社員教育	①環境関連セミナーに積極的に参加し意識を高める。	△	△	△	今年度は環境教育への参加が極端に少なかった	
	②朝礼、夕礼の場において社員に周知し理解を高める。	△	×	×		
地域貢献	①地域のボランティア活動に積極的に参加する。	○	△	△		
	②現場周辺の清掃活動を行う。	△	△	△		

○：評価できる △：まずは評価できない ×：評価できない

7 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、エコアクション21を開始した平成24年度の数値を基準に平成28年度の実績についての比較を元に、評価結果を報告いたします。

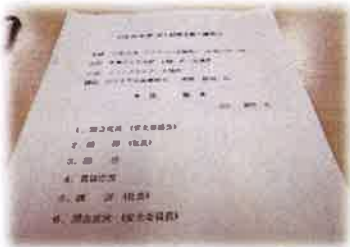
表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年	当該年度			環境目標の達成状況
		平成28年度	削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
1、電力の二酸化炭素	kg-CO ₂	108,808	1%削減	107,719	120,159	×
2、LPGの二酸化炭素		277	2%削減	271	325	×
3、ガソリンの二酸化炭素		125,619	1%削減	124,363	122,126	○
4、灯油の二酸化炭素		21,555	2%削減	21,124	17,987	○
5、軽油の二酸化炭素		482,359	1%削減	477,535	528,035	×
6、二酸化炭素合計		747,228	1%削減	739,533	788,632	×
7、一般廃棄物	kg	17,450	2%削減	17,101	17,285	△
8、産業廃棄物	kg	540,180	1%削減	534,600	1,506,280	×
9、総排水量(節水)	m ³	5,461	1%削減	5,406	4,570	○
10、グリーン購入	グリーン製品を積極的に購入する。					△
11、環境配慮製品の販売	環境にやさしい設備機器を積極的に採用する。					△
12、社員教育	回	2回		3回	1	×
13、その他(地域貢献)	回	2回		2回	2	○

環境活動の状況

社員教育 平成30年7月21日 花巻文化会館にて

はなまき法律事務所 安倍弁護士を招き、コンプライアンス研修を行いました



避難訓練 平成30年7月21日 避難・消火訓練及び地域貢献活動



【平成30年4月7日 吸引車を使用した 緊急対応訓練の様子】



8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	達成度
二酸化炭素排出量の抑制	照明	こまめに消すという意識はあるものの、より効果を見出すためには来年は、事務所以外の他の部分でのLDEへの切替を検討したい。	○
	冷暖房	各部署に冷暖房機器が、各1台しかないため、間引きもむずかしい。古い機種に関してはできるだけ省エネの新しいものへ順次交換していく。	×
	節電	事務所で節電の意識は各々あるが、建物が古いことや西日の入り具合、1階と2階の室温差があるため、目標の設定温度を徹底することが難しい。	△
	車輛その他	業務の受注にともない稼働率も上がるため、燃料費も増加した。現場でのエコドライブを徹底することが最も重要と考え、来年度はエコドライブの講習を予定する	×
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	可燃ごみの排出量が著しく多くなった理由としては、事故による現場を請負ったことにより自社分のごみの排出量として加算されたためであり、通常のごみの量としては昨年より少なかった。	○
	産業廃棄物	工事部門の解体工事があり、がれき類の排出量が著しく増加したため、全体的な数値が大幅に多くなってしまった。他廃棄物にかんしては、減少傾向にあったため評価としては排出量は増えたが取り組みとしては評価できるものとする。	△
	受託産業廃棄物	受託廃棄物に関しては、排出事業者のリサイクルに対する意識が高まってきていることもあり、買取業者や排出量の抑制に取り組む業者も増えてきていると実感できた。	○
	建設副産物	今年度は、解体工事に伴い建設副産物の廃棄物の増加につながった。	△
節水・排水	用水・排水	今年度は目標値より減少することができた。	○
その他の取組	施設・設備	特に大きな設備等の更新は行われなかった。	△
グリーン購入		例年通り、グリーン商品の購入への切替を意識してはいるものの、品目の増加にはつながらなかった	△
地域貢献		例年通り、地元でのゴミ拾い活動を行った、来年は地域の方が何を必要としているかを協議し活動につなげていきたい。	○

○：評価できる、△：まずは評価できる、×：評価できない

2. 次年度の取組内容

(1) 二酸化炭素排出量の削減

排出量が増加したのには汚泥リサイクルセンターの可動に伴う電気量の増加、及び車両の燃料が原因と思われる。処理場に関しては節電が難しいため、現場の人たちのエコドライブの意識を高める。

(2) 廃棄物の排出削減

今年度は、請負った業務により請け負う廃棄物の量も増えたことが原因。自社から排出されるものに関しては減少傾向であったので、来年度も同じように取り組む。

(3) 節水（排水対策）

今年度は数年ぶりに排水量の減量が見られた。上水の方も同じように節水に取り組む。

(4) グリーン購入

なかなか新たな品目が増えてこないの、今後も引き続きグリーン商品を購入することを継続しつつもう一度、日常業務で切替ができるものがないか協議してみる。

(5) 地域貢献に関する取組

来年度は、ゴミ拾いだけでなく、地域の方からの意見も取り入れ、弊社が地元に対し何をすべきなのかを協議し、反映させていく。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法において、遵守状況を確認いたしました。違反はありませんでした。また、過去3年においても関係当局からの違反等の指摘、訴訟はありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針	取り組みを始めてから5年となるが、もともとの目的「永遠に美しい地球」をテーマにしているものの結果に伴っていない。理念の中に含まれる地域貢献についてもここ数年は活動がマンネリ化してきている。	来年度は、社員教育に力をいれ、環境問題を社全体で理解した上で、このエコアクションに取り組む姿勢作りをしていく。
2 環境目標	業務の受注量の増加に伴い、使用するエネルギー量も多くなってきている。しかし、廃棄物の分別や、排出量の抑制に関しては個々の意識が見られていると感じた。	来年度は環境目標を見直し、更新審査に向けて取り組みを促す。個々のエコドライブの意識を高め燃料の減少、廃棄物の分別とリサイクルが日常化するように取り組んでいく。
3 環境活動計画及び環境経営システム	裏紙の利用やこまめた電気のスイッチなど小さいことから、個々の少しずつでもという意識が会社全体で取り組むことによって、結果として反映されることを周知させる。	難しく考えず、まずは初心に戻り、裏紙の使用やコピーミスの削減、クールビズやウォームビズ等で室内の設定温度を一定にするようにする等の個々の取り組みの意識をあげる。
4 全体評価	業務が多忙になるにつれ、燃料の使用量や電気の使用量が増加する。しかし、だからこそもう一度我が社が環境に対して負荷をかけないためにも、このエコアクションの取り組みを今一度見直し、環境問題を見直す必要があると考える。来年度は目標値の見直しを図り、全社員への取組の意義と結果が伝わるように、代表の私みずから呼びかけていく様にしていきたい。	

1 1 廃棄物処理業に関する情報公開

事業所名	株式会社 理水興業						
代表者名	今野 秀實						
所在地	〒025-0065 岩手県花巻市星が丘二丁目16-12						
環境管理責任者	高橋 満	エコアクション21担当者	今野 睦				
連絡先	電話	0198-23-5395	ファクス	0198-23-6078			
	E-mail	risui.top9@dance.ocn.ne.jp					
	URL	http://www.risui-kogyo.co.jp/					
事業活動の内容	1. メンテナンス部門 汚水処理施設（浄化槽含）の維持管理、清掃 2. 環境事業部門 (1) 産業廃棄物（特別管理産業廃棄物含）の収集・運搬（積替保管含む）、 中間処理（汚泥）・処理 (2) 一般廃棄物収集運搬業 (3) 貯水槽・油タンク等の清掃・管理、各種配管の洗浄・更生 3. 工事部門 (1) 管工事 給排水・衛生・空調・消防設備・浄化槽等の設計・施工 (2) 土木工事 水道本管・舗装・下水関連等 (3) その他の工事 電気工事等						
事業計画の概要	当社の関係事業を通じて、資源循環型社会構築を目的とし、低炭素社会構築に貢献する。						
事業の範囲	岩手県内一円						
事業の規模	事業年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
	売上高（千円）	1,407,499千円	1,422,520千円	1,556,956千円			
	産廃収集運搬量	18165.80 t	28098.10 t	13160.55 t			
	一般収集運搬量	3757.45 t	3753.29 t	3515.07 t			
	処分量	3361.48 t	2154.00 t	2026.94 t			
	従業員（名）	71名	75名	73名			
法人設立年月日	昭和47年9月5日		資本金	4,000万			
許可の内容	許可名	許可番号		事業区分、廃棄物の種類			
		許可有効期限					
	基準適合産業廃棄物処理業者	許可 有効	2018-038号 H30.6.29～R3.6.28	産業廃棄物処理業/収集運搬業（積替保管あり）処分量（中間処理） 特別管理産業廃棄物処理業/収集運搬業（積替保管あり）			
	一般廃棄物処理業	許可 有効	花巻市（第200-15） H30.4.1～H32.3.31	事業系ごみ・家庭系ごみ・浄化槽汚泥の収集運搬			
	一般廃棄物処理業	許可 有効	北上市（第499号積降し） R元5.1～R3.4.30	一般廃棄物の収集運搬業			
	建築物飲料水貯水槽清掃業	許可 有効	岩手県53二十三貯第2号 H29.9.1～H35.8.31	建築物飲料水貯水槽業			
	建築物排水清掃業	許可 有効	岩手県53二十六排第1号 H26.12.16～H32.12.15	建築排水管清掃業			
	地下タンク等点検業	許可 有効	地(7)第03005号 R元6.1～R6.5.31	地下タンク等点検業			
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数	
	汚泥リサイクルセンター	横軸遠心分離脱水機	処理能力：40m ³ /日	1台	4tユニック車	2,850kg	1台
		塵芥車			4,500kg	1台	
		造粒固化施設	処理能力：100t/日		塵芥車	2,400kg	1台
		排水処理施設			塵芥車	4,450kg	1台
		バックホー 0.45m ³	1台		冷蔵冷凍車	2,000kg	1台
		ホイルローダー 1.2m ³	1台		バン	1,500kg	1台
		ホークリフト 1.5t	1台		脱着装置付コンテナ専用車	3,850kg	1台
	7tユニック車	6,900kg	1台	脱着装置付コンテナ専用車	7,800kg	1台	
	4tユニック車	3,000kg	1台	脱着装置付コンテナ専用車	7,900kg	1台	
	マグナス汚泥吸引車	7,250kg	1台	脱着装置付コンテナ専用車	3,950kg	1台	
	Sモービル汚泥吸引車	9,400kg	1台	7tトラック	8,000kg	1台	
	モービル汚泥吸引車	8,200kg	1台	洗浄車	450kg	1台	
	Sモービル汚泥吸引車	9,120kg	1台	洗浄車	2,500kg	1台	
	タンクローリー	10,040kg	1台	工作車	2,000kg	1台	
	タンクローリー	11,160kg	1台	貯水車	1,000kg	1台	
	バキューム車	3,400kg	1台	トリータ固液分離車	36m ³ /日(4.5m ³ /時間)	1台	
	バキューム車	3,500kg	1台	カーネーション袋脱水車		1台	
	バキューム車	3,600kg	1台	バキューム車	3,700kg	2台	
	バキューム車	3,600kg	1台	バキューム者	5,200kg	1台	
	4tダンパー車	2,700kg	1台	5tユニック	5,100kg	1台	
バキューム車	3,600kg	1台	パワーゲート	1,800kg	1台		
積替施設面積&保管上限		面積	84.68m ²	保管量	35.7m ³		

13 受託した産業廃棄物の収集運搬処理量

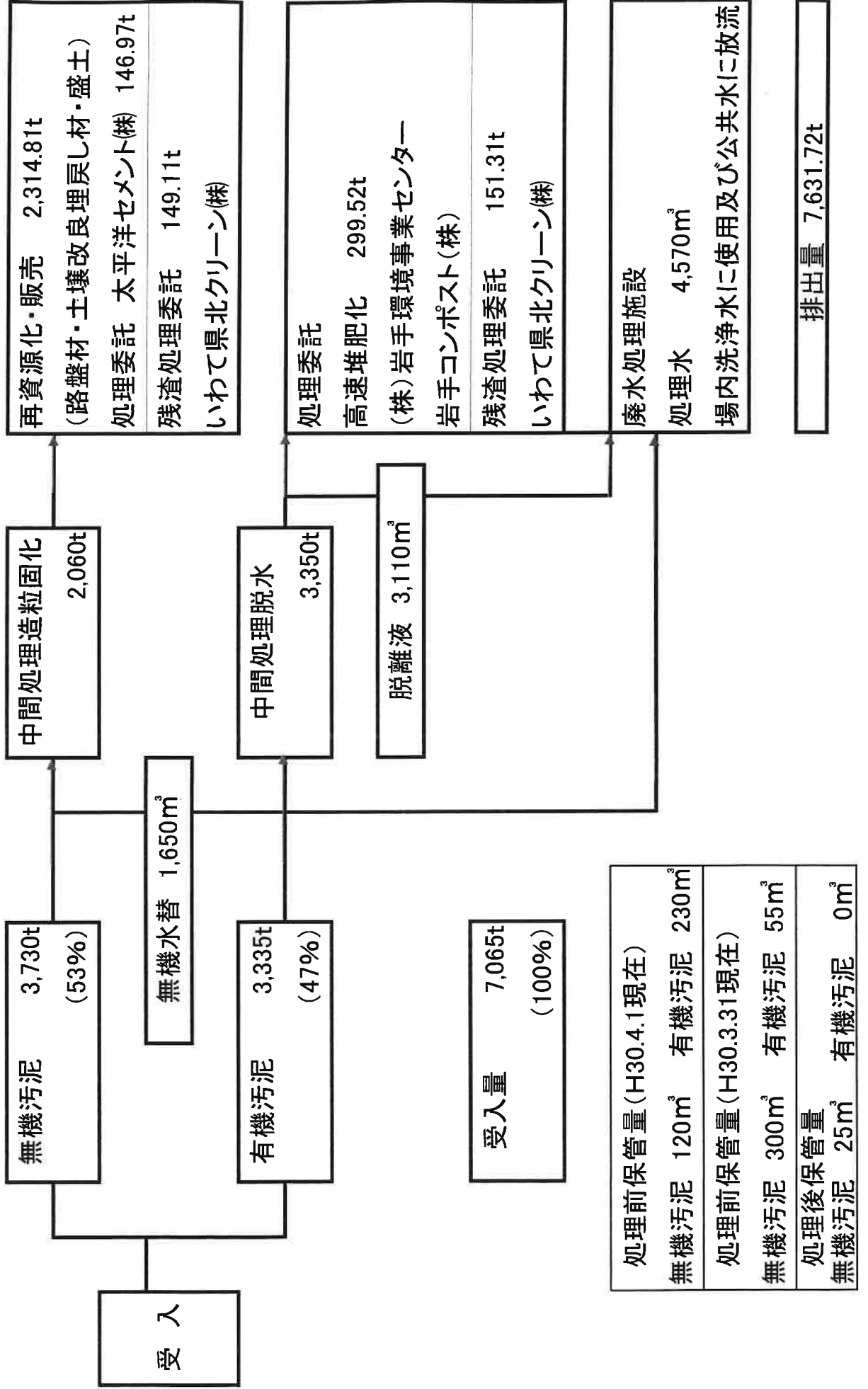
平成30年度

処理方法等	廃棄物等種類	平成28年度処理量 t	平成29年度処理量 t	平成30年度処理量 t	
収集運搬	燃え殻	27.33	1.60	2.77	
	汚泥	14995.26	12846.76	11102.99	
	廃油	749.78	8061.10	993.29	
	廃酸	68.62	8.50	126.59	
	廃アルカリ	56.54	54.37	68.41	
	廃プラスチック	1839.34	5440.79	394.98	
	紙くず	0.00	0.01	0.46	
	木くず	8.16	21.40	20.03	
	動物性残渣	177.18	122.53	183.97	
	繊維くず	22.80	17.20	18.30	
	金属くず	21.03	94.62	48.83	
	ガラス陶磁器	34.77	1189.11	38.15	
	がれき類	42.62	0.07	15.32	
	廃油（特管）	76.39	177.30	94.49	
	廃アルカリ（特管）	2.71	1.40	2.27	
	感染性	25.95	22.06	25.88	
	廃石綿等	0.01	20.38	0.15	
	汚泥（特管・有害）	16.26	15.47	21.42	
	廃油（特管・有害）	0.60	0.92	2.25	
	廃酸（特管・有害）	0.00	0.00	0.00	
廃アルカリ（特管・有害）	0.41	0.01	0.00		
	強酸（有害）	0.00	0.00	0.00	
	強酸	0.04	2.50	0.00	
平成30年収集運搬量合計			13160.550 t		
中間処理	汚泥	脱水、造粒固化		7065.21 t	
中間処理合計					
再資源化	汚泥				7065.21 t

【汚泥リサイクルセンターにおける環境への負荷の実績】

		単位	H28年	H29年	H30年
① 総エネルギー投入量	購入電力	MJ	1338718	1619826	1635063
	化石燃料	MJ	738473	704928	559258
	新エネルギー	MJ	/	/	/
	LPG	MJ	107	321	64
② 総物質投入量	資源投入量	t	/	/	/
	循環資源投入量	t	/	/	/
③ 水資源投入量	上水	m ³	332	229	798
	工業用水	m ³	/	/	/
	地下水	m ³	/	/	/
【④ 温室効果ガス排出量】	【二酸化炭素】購入電力	Kg-CO ₂	81712	98870	92481
	【二酸化炭素】化石燃料	Kg-CO ₂	50586	48295	38288
【⑤ 総排水量】	公共用水域	m ³	5461	4490	4570

産業廃棄物の処理工程(平成30年4月～平成31年3月)



処理前保管量(H30.4.1現在)	
無機汚泥 120m³	有機汚泥 230m³
処理前保管量(H30.3.31現在)	
無機汚泥 300m³	有機汚泥 55m³
処理後保管量	
無機汚泥 25m³	有機汚泥 0m³

排出量 7,631.72t